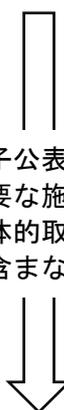


中部圏広域地方計画 骨子（素案） 目次

はじめに（計画の意義等）	1
計画の対象区域	1
計画期間	1
第1章 我が国と中部圏を取り巻く情勢	2
第1節 我が国を取り巻く情勢	2
1 社会全般の変化	2
2 生活の変化	5
3 産業の変化	8
4 災害リスクの変化	9
第2節 中部圏を取り巻く情勢	11
1 中部圏を取り巻く社会情勢	11
2 中部圏の地域特性・強み	12
3 中部圏の状況・課題	17
第2章 将来像とその実現に向けた目標（将来像・目標）	21
第1節 将来像（＝中部圏で暮らす人々のウェルビーイングを実現するためのビジョン）	21
1 中部圏の目指す方向	21
2 中部圏の将来像	21
第2節 目標（＝中部圏の将来像の実現に向けた方向性）	22
1 魅力あふれる地域の創出	22
1－1 活力ある地方の創生	22
1－2 暮らしやすい地域生活圏の形成	22
2 産業構造の高度化	23
2－1 ものづくりの高付加価値化と新産業の創出による産業の強化	23
2－2 世界をリードし続ける産業構造への転換	23
3 新たな大都市圏への進化	23
4 恵みの活用、圏土の強靱化	23
4－1 魅力ある地域資源の保全・活用	23
4－2 地域が直面するリスクへの対応	24
第3節 国土づくりの戦略的視点	24
第3章 実現に向けた主要な施策（主要な施策）	
目標1 魅力あふれる地域の創出	
1－1 活力ある地方の創生	

骨子公表
範囲

- 1-2 暮らしやすい地域生活圏の形成
 - 目標2 産業構造の高度化
 - 2-1 ものづくりの高付加価値化と新産業の創出による産業の強化
 - 2-2 世界をリードし続ける産業構造への転換
 - 目標3 新たな大都市圏への進化
 - 目標4 恵みの活用、圏土の強靱化
 - 4-1 魅力ある地域資源の保全・活用
 - 4-2 地域が直面するリスクへの対応
- 第4章 具体的取組



骨子公表には
主要な施策、
具体的取組は
含まない

1
2 はじめに（計画の意義等）
3

4 中部圏広域地方計画協議会は、平成 28 年（2016 年）3 月、中部圏の国土形
5 成の指針となる「暮らしやすさと歴史文化に彩られた“世界ものづくり対流拠
6 点—中部”」と表した中部圏広域地方計画をとりまとめた。中部圏では、この
7 計画を指針に産学官民が連携協力した地域づくりが進められてきた。

8 しかしながら、依然として進行する人口減少・高齢化、南海トラフ地震など
9 の巨大災害の切迫に加え、新型コロナウイルス感染症の拡大による社会変容、
10 および激甚化・頻発化する自然災害、国際情勢の緊迫などによるエネルギーや
11 食料の重要性の再認識など、当圏域を取り巻く状況の変化は大きく、対応に迫
12 られている。また、日本の国際競争力の低下が懸念される中で、日本の経済を
13 牽引してきたものづくり産業においても急速に発達するデジタル技術を取り込
14 み、スタートアップなどとの連携によるコトづくりが急務となっている。加え
15 て、国際社会の一員としてSDGs、カーボンニュートラルなどへの対応も強
16 く求められる時代を迎えている。

17 一方で、リニア中央新幹線によるスーパー・メガリージョンの形成が期待さ
18 れている。その中心の役割を担う中部圏は、スーパー・メガリージョンの形成
19 を契機として圏域内外の人流を活性化させ、持続可能な社会の形成、国際競争
20 力の強化、東京一極集中の是正等の好機を迎える。

21 これらの課題や機会に適切に対応し、中部圏で暮らす人々のウェルビーイン
22 グを向上させていくための指針として、新たな「中部圏広域地方計画」を策定
23 するものである。
24

25 計画の対象区域

- 26 ・長野県、岐阜県、静岡県、愛知県及び三重県の 5 県を対象
- 27 ・隣接する首都圏や近畿圏、北陸圏等との連携を踏まえた計画

29 計画期間

- 30 ・本計画の期間は、2050 年さらにその先の長期を展望しつつ、スーパー・メガ
31 リージョンの形成を見据えた、今後概ね 10 年間とする。

33 第1章 我が国と中部圏を取り巻く情勢

34 第1節 我が国を取り巻く情勢

35

36 1 社会全般の変化

37 1-1 社会経済情勢の変化

38 ・人口減少・少子高齢化は急激に進行しており、2050年には人口は約1億人ま
39 で減少し、高齢化率は37.7%に達する見込みである。(図表1-1)

40 ・激化する国際競争により、ヒト、モノ、カネ、情報の吸引力低下への懸念が
41 高まっている。またロシアのウクライナ侵攻等、緊迫化する国際情勢の中で、
42 国際的な物流リスクやエネルギー、食糧の海外依存リスクの懸念が高まって
43 いる。

44 ・製造業の労働生産性水準は、1995年及び2000年にはOECD主要国で最も
45 高かったが、2000年代に入ると大きく後退し、2018年には16位まで落ち込
46 んでいる。

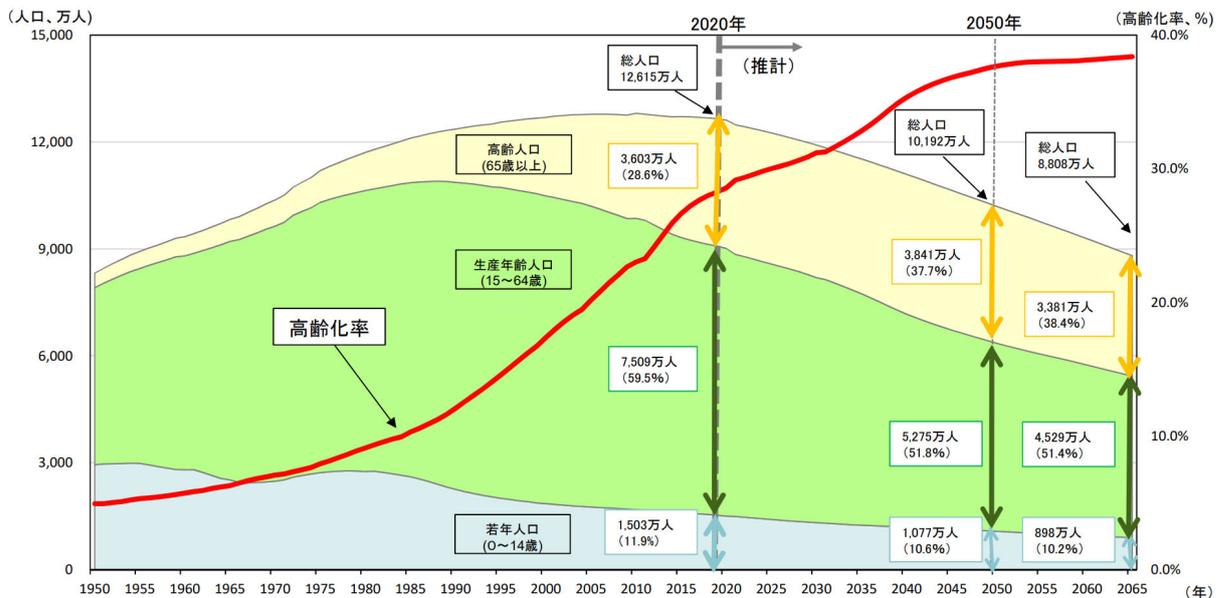
47 ・世界各国のGDPは、これまで世界経済を牽引してきた先進国を新興国が上
48 回ることが予測されている。

49 ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により、物流の停滞・サプライチェ
50 ーンの分断、交流機会の低下が生じている。

51

52

図表1-1 総人口及び年齢階層別人口の推移及び将来推計



53

54 出典：国土審議会第13回計画部会「我が国国土が直面するリスクと構造的な変化（参考資料）」資料2-2

55

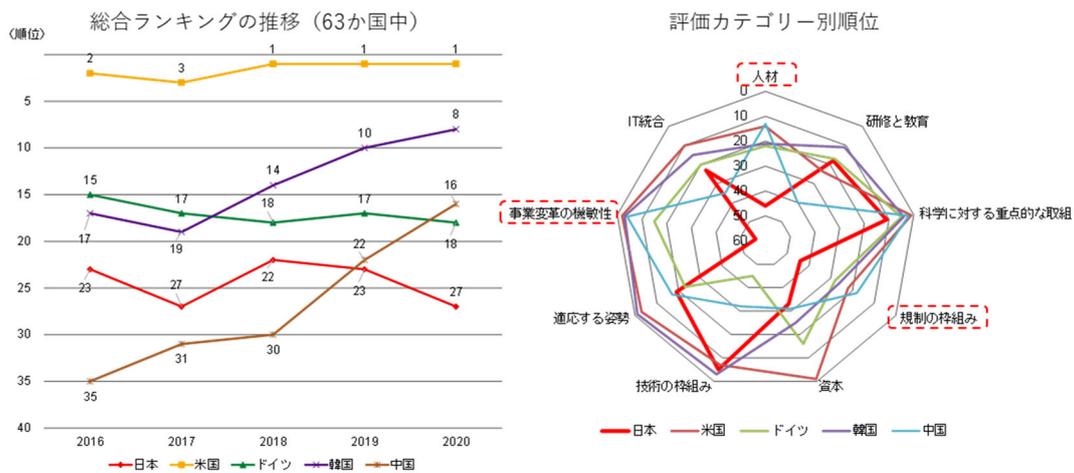
56 1-2 デジタル社会の急速な進展

- 57 ・ 様々なデータをもとにまちの状態を把握し、意思決定や合意形成を進めると
- 58 ともに、地域経営や産業を活性化するデータを活用した市民参加のまちづく
- 59 りが進展している。
- 60 ・ デジタル利用の増加の一方で諸外国に比して行政サービス等におけるデジタ
- 61 ル化が遅れており、デジタル人材の不足、デジタル基盤整備の遅れも顕在化
- 62 している。(図表 1-2)

63

64

図表 1-2 日本のデジタル競争力の国際的評価



65

66 出典：国土交通省「第 23 回国土審議会 配付資料 資料 2-3_国土の長期展望専門委員会最終とりまと

67 め参考資料」(2021 年 7 月)

68

69 1-3 カーボンニュートラルへの対応

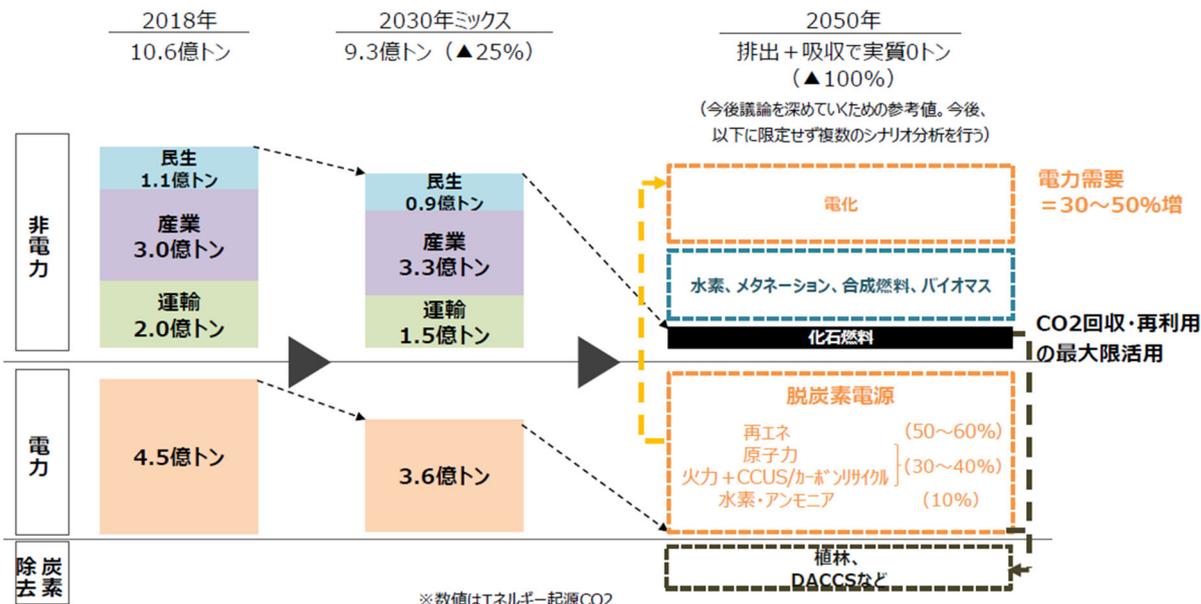
- 70 ・ 2050 年までのカーボンニュートラルの実現を目標として掲げ、国・地方公共
- 71 団体・企業などあらゆる主体は、その実現に向けた取組を進めている。(図
- 72 表 1-3)
- 73 ・ カーボンニュートラルを推進していくため、民間投資の活性化だけでなく、
- 74 水素ステーション、蓄電池支援など足下の投資を後押しする政策の推進と、
- 75 産業界への適切な支援の拡充が求められている。
- 76 ・ デジタル化ならびにカーボンニュートラルもあいまって、モビリティ産業が
- 77 100 年に一度の大変革期を迎えている。

78

79

80

図表 1-3 カーボンニュートラルの転換イメージ



81

82 出典：内閣府 第6回成長戦略会議 「資料1 2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」
83 より国土政策局作成（2020年12月）

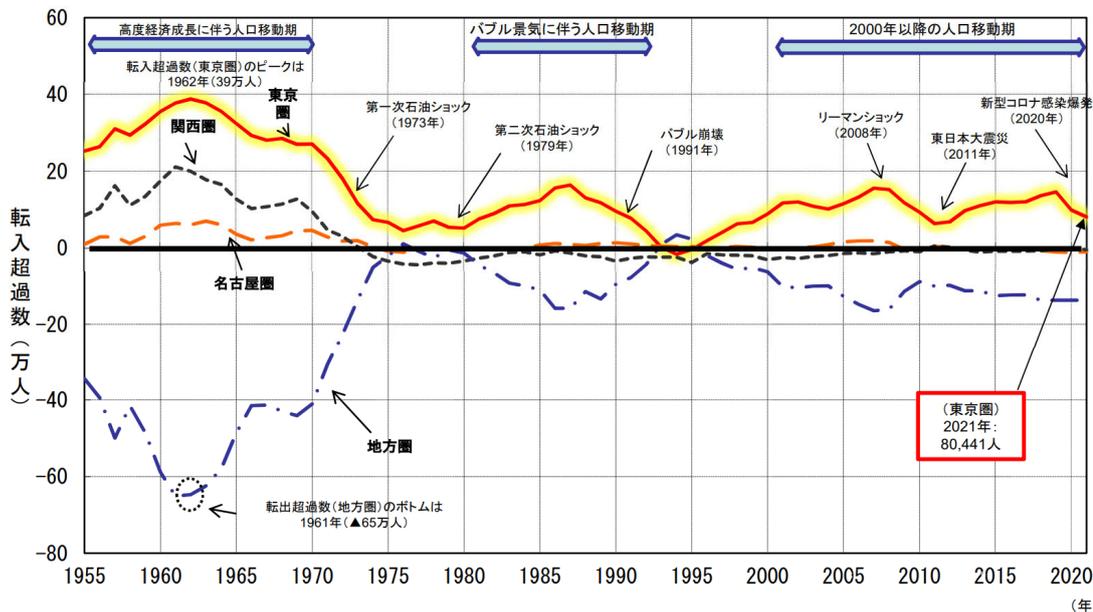
84

85 1-4 東京一極集中の継続

- 86 ・地方の若者、特に女性の転出、東京圏への転入超過傾向による地方の衰退が
- 87 顕著になっている。（図表1-4）
- 88 ・官民の中核機能の集中により、首都直下地震が発生した際の国家機能不全の
- 89 リスクを有する。

90

図表 1-4 東京圏への転入超過の推移



(出典)総務省「住民基本台帳人口移動報告」より国土政策局作成。

(備考)上記の地域区分は以下のとおり。

東京圏: 埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県 名古屋圏: 岐阜県、愛知県、三重県 関西圏: 京都府、大阪府、兵庫県、奈良県

三大都市圏: 東京圏、名古屋圏、関西圏 地方圏: 三大都市圏以外の地域

(年)

92

93

出典：国土審議会第13回計画部会「我が国国土が直面するリスクと構造的な変化（参考資料）」資料2-2

94

95 2 生活の変化

96 2-1 働き方の変化

97 ・週休2日制の普及や短時間労働者の増加を背景として、1980年以降の長期的な推移として一人当たり労働時間は減少してきている。(図表1-5)

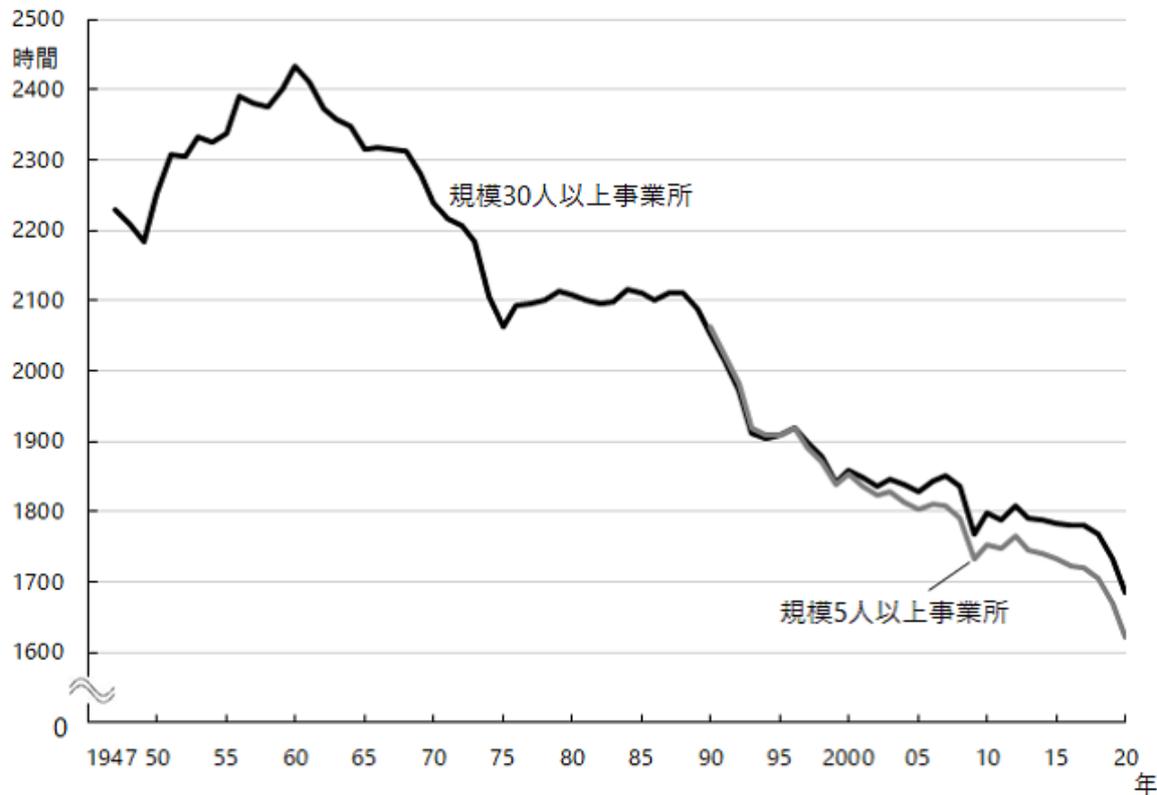
98
99 ・コロナ禍を契機とし、テレワークの浸透や場所にとらわれない働き方、副業、
100 特定の組織等に属さないフリーランスなど多様な働き方への関心が高まって
101 いる。

102 ・一部の企業ではBCPの観点からオフィスの地方分散が行われるとともに、
103 地方での暮らしに対する魅力の高まりに伴う二地域居住や地方・田園回帰の
104 動きが見られる。

105

106
107

図表 1-5 常用労働者 1 人平均年間総実労働時間数



108
109
110
111
112
113
114
115
116

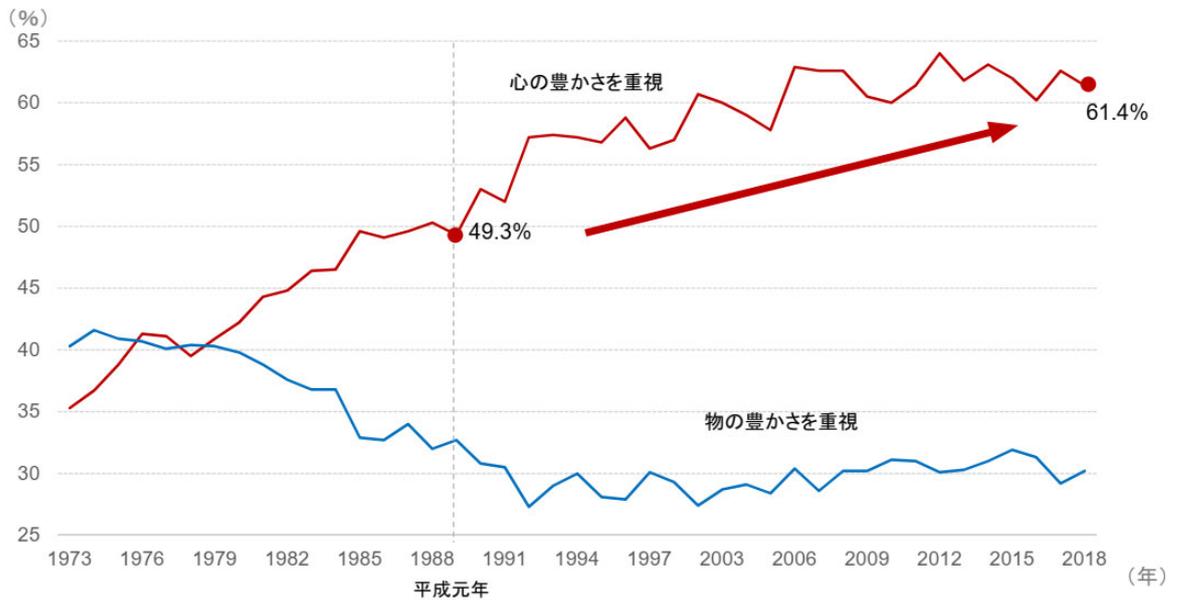
出典：厚生労働省「毎月勤労統計調査」

2-2 ライフスタイルの変化

- ・「物の豊かさ」より「心の豊かさ」への変化を重視した生き方を望む人が多くなっている。(図表 1-6)
- ・働き方の変化とともに、人生観、価値観、習慣などを含めた個人の生き方(ライフスタイル=生活様式・営み方)が多様化している。

117

図表 1-6 「豊かさ」に関する意識の推移



118

(注)物の豊かさ→「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」

心の豊かさ→「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさやゆとりのある生活をするに重きをおきたい」

119

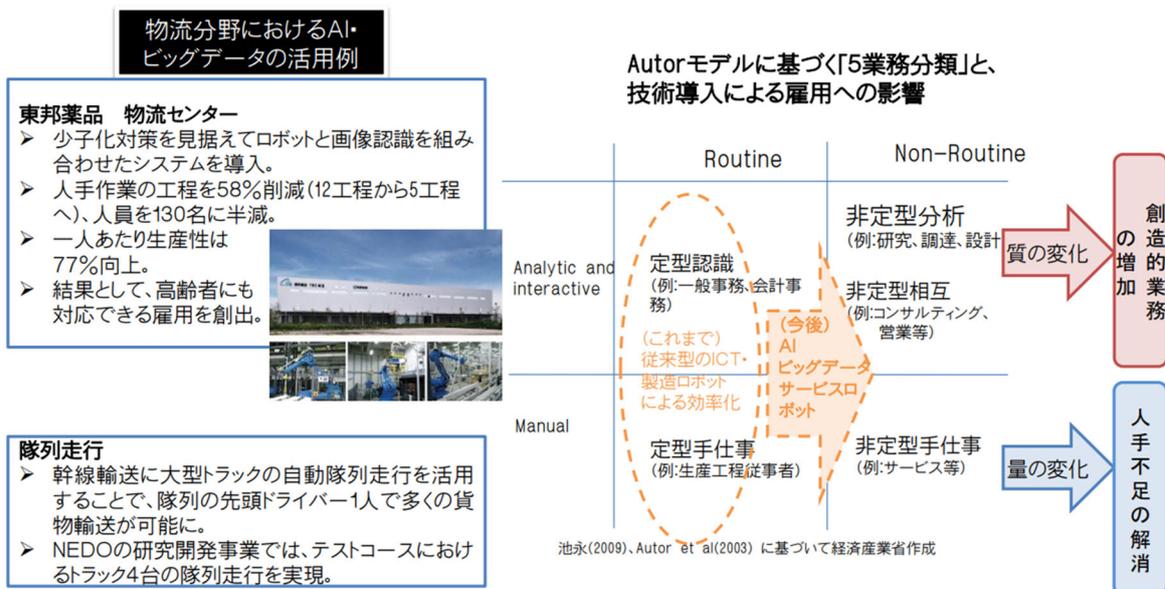
出典：内閣府「国民生活に関する世論調査」より国土交通省作成

120

121 3 産業の変化

- 122 ・ AI やビッグデータの導入によって、これまでの一般事務や生産工程等の定
 123 型的な業務の自動化から、研究やコンサルティング、サービス等の非定型的
 124 な業務の自動化が進むことで、労働の創造的業務の割合が増加するなど、労働
 125 の質的な変化が見込まれている。(図表 1-7)
- 126 ・ AI、ビッグデータを活用したマーケティングや、プラットフォームを介した
 127 マッチングにより、個々のニーズに寄り添った製品やサービスにより高い
 128 付加価値を生み出すなど、産業構造の変化が起きている。
- 129 ・ 自動車産業を取り巻く環境も、CASE・MaaSの潮流に加え、カーボン
 130 ニュートラルに向けた取組が国内外で加速するなど、様々な変化が起こって
 131 いる。
- 132 ・ 産業基盤のデジタル化と高度化、ならびに新興国の経済成長とグローバル・
 133 バリューチェーンが深化している。
- 134 ・ 国際情勢の複雑化、社会経済構造の変化等により、経済安全保障の観点で、
 135 国家・国民の安全を経済面から確保するための取組を強化・推進することが
 136 求められている。
- 137 ・ 日本型雇用の見直しや産業構造の変化に合わせた人材の配置が求められる。
- 138 ・ 物流業界では 2024 年問題等を背景に、トラックの輸送能力が不足する可能性
 139 が指摘されている。

141 図表 1-7 労働の質的な変化



142

143

出典：経済産業省「AI・ビッグデータによる産業構造・就業構造の変革」(2015年)

144

145 4 災害リスクの変化

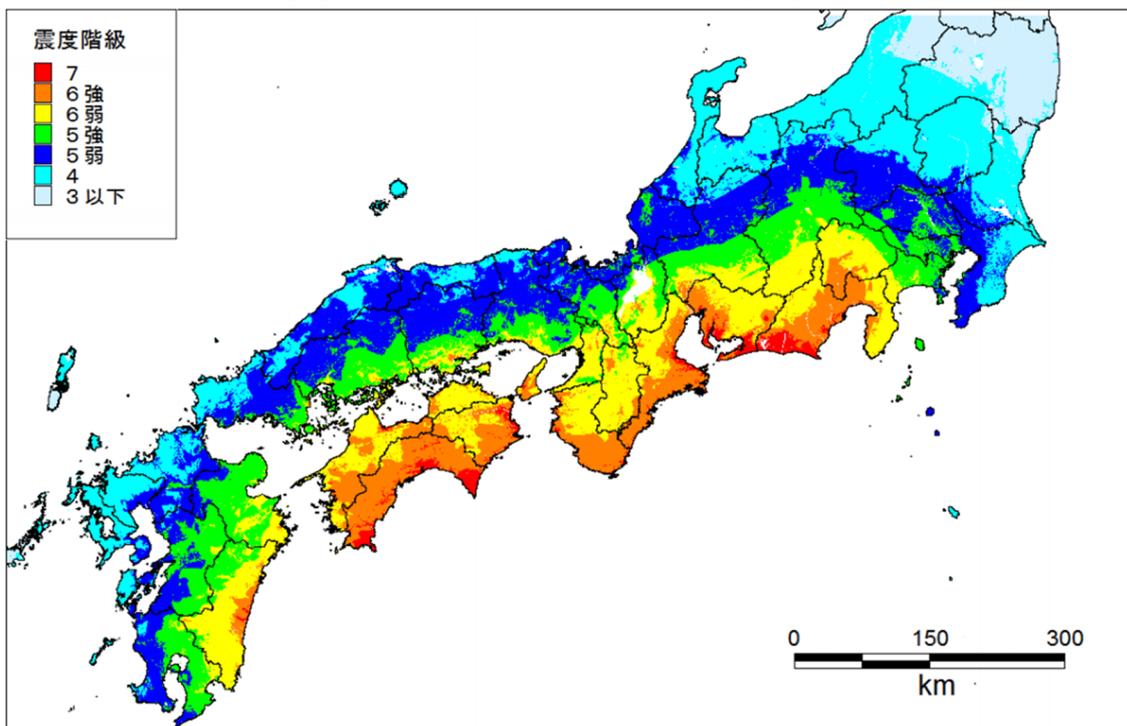
146 4-1 南海トラフ地震の切迫

147 ・南海トラフ地震、首都直下地震等が切迫しており、首都圏をはじめ太平洋側
148 の人口・産業の集積地域に甚大な被害が想定されるとともに、長期間の経済
149 活動の停滞が危惧されている。(図表 1-8)

150

151

図表 1-8 南海トラフ地震の震度分布 (震度の最大値の分布図)



152

153 出典：中央防災会議 防災対策推進検討会議「南海トラフ巨大地震対策について (最終報告)」(2013 年)

154

155 4-2 地球温暖化の進行による災害の激甚化・頻発化

156 ・気候変動により、洪水、高潮、土砂災害などが激甚化、頻発化している。ま
157 た、気温上昇に起因する渇水リスクの懸念が増大している。(図表 1-9)

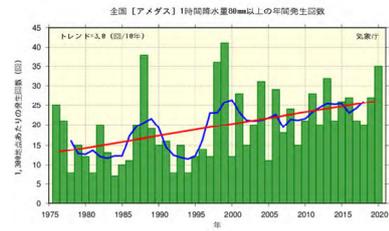
158

図表 1-9 自然災害の激甚化・頻発化

■全国各地で頻発する自然災害



■集中豪雨の年間観測回数の推移



■土砂災害の発生件数の推移



160

161 出典：中部地方整備局河川部「第1回流域治水の推進に向けた中部関係省庁実務者会議」資料2流域治水
162 について、国土交通省中部地方整備局の取組の状況

163

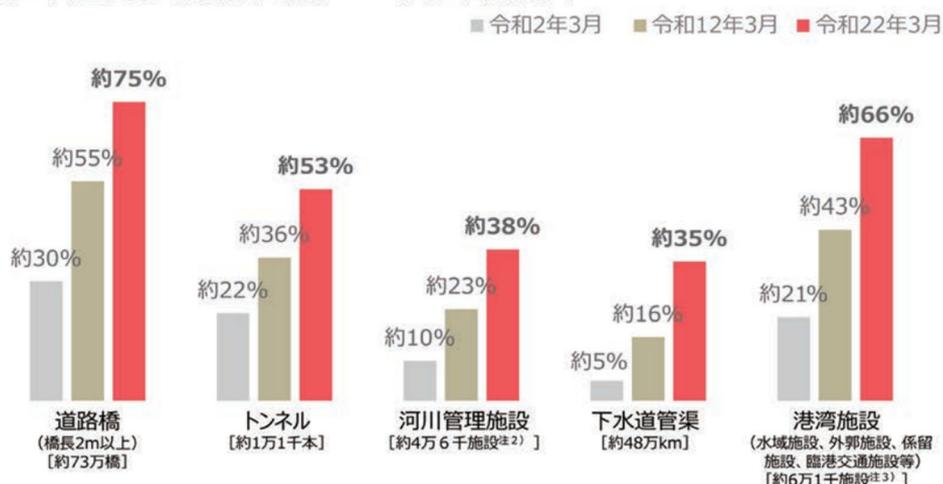
164 4-3 インフラの老朽化

- 165 ・我が国のインフラは、高度経済成長期以降に集中的に整備されており、今後、
- 166 建設から50年以上経過する施設の割合は加速度的に増加する見込みである。
- 167 ・全国約73万橋の道路橋梁については、建設後50年を経過する施設の割合は、
- 168 2020年3月時点では約30%であったが、2040年3月には約75%へと急増す
- 169 ることが見込まれている。(図表1-10)
- 170 ・約6.1万ある港湾施設については、建設後50年を経過する施設の割合は、
- 171 2020年3月時点では約21%であったが2040年では約66%になると予想され
- 172 ている。
- 173 ・人材・担い手の不足により、インフラの適切な維持管理が困難になることが
- 174 予想され、圏土の管理水準低下が懸念されている。
- 175

図表 1-10 インフラの老朽化

高度成長期以降に整備された道路橋、トンネル、河川、下水道、港湾等について、建設後50年以上経過する施設の割合が加速度的に高くなる。
 ※施設の老朽化の状況は、建設年度で一律に決まるのではなく、立地環境や維持管理の状況等によって異なるが、ここでは便宜的に建設後50年で整理。

【建設後50年以上経過する社会資本の割合^{注1)} (令和2年度算出)】



注1) 建設後50年以上経過する施設の割合については、建設年度不明の施設数を除いて算出。

注2) 国：堰、床止め、閘門、水門、揚水機場、排水機場、樋門・樋管、陸揚、管理橋、浄化施設、その他(立坑、遊水池)、ダム。独立行政法人水資源機構法に規定する特定施設を含む。

都道府県・政令市：堰(ゲート有り)、閘門、水門、樋門・樋管、陸揚等ゲートを有する施設及び揚水機場、排水機場、ダム。

注3) 一部事務組合、港務局を含む。

177

178

出典：国土交通省「国土交通白書 2022」

179

180

第2節 中部圏を取り巻く情勢

181

182

1 中部圏を取り巻く社会情勢

183

・リニア中央新幹線の開業に向けた名古屋駅のスーパーターミナル化や都心部や広域観光の核となる拠点整備が進むなど、広域的な交流拠点の形成に向けた取組が進められている。またリニア中央新幹線中間駅ならびに中核都市を拠点とした地域づくりの活性化が検討されている。(図表 1-11)

187

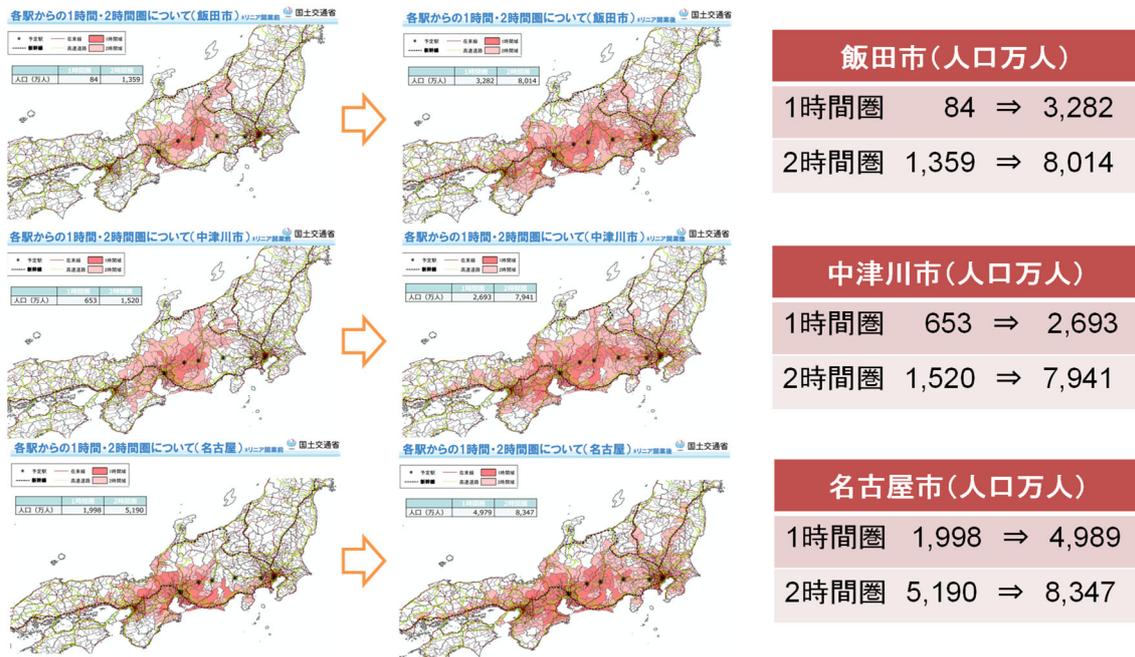
・完全24時間運用の実現ならびに航空物流や広域観光の促進に寄与する中部国際空港の第二滑走路の整備が求められている。

189

・2026年(令和8年)に愛知・名古屋で開催する第20回アジア競技大会・第5回アジアパラ競技大会に際して多くの人々が中部圏を来訪すると見込まれており、大会を契機とした交流人口の拡大、国際交流の促進、共生社会の実現、国際競争力の強化などさまざまな分野への波及を目指している。

193

図表 1-11 リニア中央新幹線各駅からの1時間、2時間圏の変化



195

196

出典：国土交通省「スーパー・メガリージョン構想検討会」最終とりまとめ参考資料より作成

197

198

2 中部圏の地域特性・強み

199

200

2-1 豊かな自然環境

201

・中部圏では、日本の屋根といわれる 3000m超の日本アルプスが北側にそびえている。太平洋・日本海を分ける分水嶺を源に、木曾川、天竜川等、我が国

202

203

204

205

206

207

図表 1-12 中部が有する豊富な自然環境



中部山岳国立公園 飛騨木曾川国立公園 八ヶ岳中信高原国立公園 富士箱根伊豆国立公園



国営木曾三川公園 愛知高原国立公園 伊勢志摩国立公園 天竜奥三河国立公園

209

210

出典：写真A Cをもとに中部地方整備局作成

211

212

2-2 地域特有の伝統芸能・歴史文化

213

・中部圏は歴史上の要人を多数輩出し、街道筋には宿場町が栄え、地域固有の
 214 伝統芸能・文化が継承され、さらには各地域でユニークな食文化も根付いて
 215 いる。(図表 1-13)

216

217

図表 1-13 地域住民が歴史の中で培ってきた伝統・文化



日本人の総氏神 伊勢神宮（内宮）（三重県伊勢市）
 国選定重要伝統的建造物群 保存地区 高山の古い町並（岐阜県高山市）
 世界文化遺産 白川郷・五箇山の合掌づく り集落（岐阜県白川村）
 国の重要無形民俗文化財 長良川鶯飼（岐阜県岐阜市・関市）



国選定重要伝統的建造物群 保存地区 妻籠宿（長野県南木曾町）
 ユネスコ無形文化遺産 犬山祭り（愛知県犬山市）
 世界文化遺産 熊野古道（三重県熊野市）
 世界文化遺産 三保の松原（静岡県静岡市）

218

219

出典：写真A Cをもとに中部地方整備局作成

220

221

2-3 ゆとりある生活環境

222

・名古屋圏は三大都市圏の中では、一住宅当たりの延べ面積、通勤時間 1 時間

223 以内の住宅割合が最も高く、地方交付税の不交付団体が多いことなどから示
 224 されるように空間的、時間的、経済的なゆとりがある圏域である。(図表 1-
 225 14)

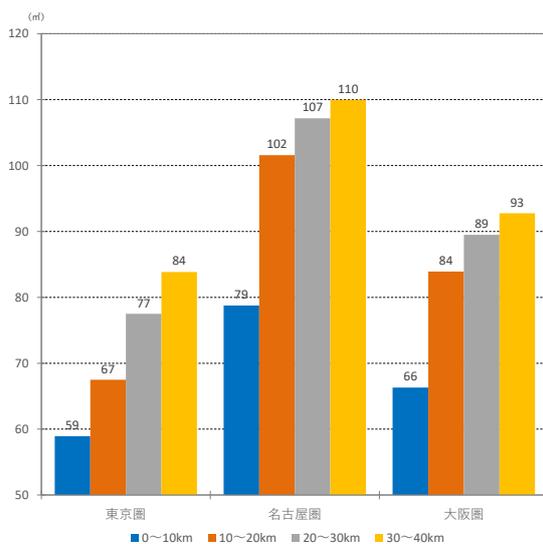
- 226 ・ 三世帯世帯比率は首都圏、近畿圏の約 2 倍と高い水準にあり、合計特殊出生
 227 率は首都圏や近畿圏および全国平均を上回る。
- 228 ・ 自動運転サービスの社会実装や 6 次産業化・地域ブランド化などの取組が進
 229 められているほか、生活・コミュニティ機能を地域の拠点地区に集約し、周
 230 辺集落とネットワークでつなぐ「小さな拠点づくり」が進みつつある。
- 231 ・ 中部圏の有業率や労働力人口率は上昇しており、就労環境が改善している一
 232 方、70 歳まで働ける企業数の全国シェアは低下傾向にある。

233

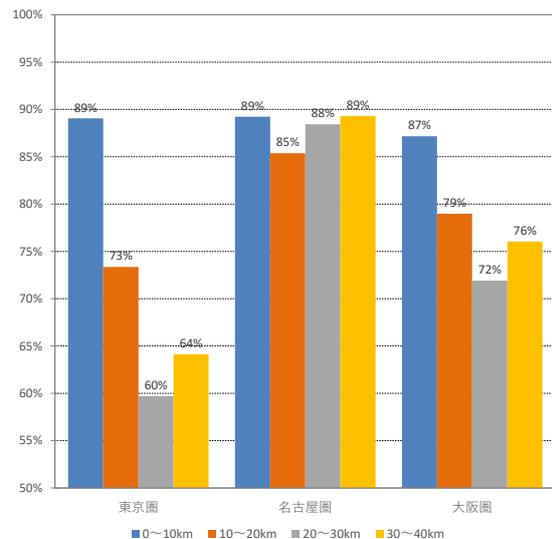
234 図表 1-14 都心からの距離別一住宅当たり延べ面積、
 235 都心からの距離別通勤時間 1 時間未満比率
 236

237

都心からの距離別一住宅当たり延べ面積



都心からの距離別通勤時間 1 時間未満比率



238

239 ※東京圏、名古屋圏、大阪圏：旧東京都庁（東京都千代田区）、名古屋市役所（名古屋市中区）、大阪市役
 240 所（大阪市北区），を中心とする一定の半径の円内に含まれる町丁・字等の地域

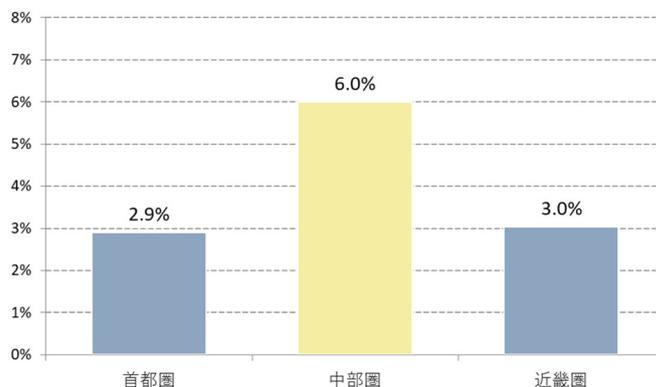
241 出典：総務省「平成 30 年住宅・土地統計調査確報集計」より作成

242

243

244

図表 1-15 全世帯に占める三世帯世帯の割合



245

246

出典：総務省「令和 2 年国勢調査 人口等基本集計（第 10 表世帯の家族類型、世帯人員の人数別一般世帯数）」より作成

247

248

249

2-4 ものづくりと農林水産業の盛んな産業特性

250

・ 中部圏は、世界を代表する自動車産業や高い技術力を誇る地場産業など「ものづくり」の生産拠点となっている。

251

252

・ 2020 年の中部圏の製造品出荷額等は 82.6 兆円で我が国全体の 27%であり、自動車関連産業は 29.9 兆円で我が国全体の 56%を占めている。（図表 1-16）

253

254

・ 中部圏の海の玄関口である名古屋港の貿易収支は、全国的に貿易赤字が見られるようになった近年においても、貿易黒字が続いている。

255

256

・ 恵まれた自然条件や大消費地と産地が近いという地理的条件を活かし、中部圏では様々な農林水産業が営まれている。近年、ロボット、AI、IoTを駆使した農業の自動化・省人化等のスマート農業や農林水産業の6次産業化の取組も進められている。

257

258

259

260

・ 広大な山地を抱える中部圏では、木曽桧、天竜杉、尾鷲ヒノキなど各流域で特色ある木材生産が行われている。

261

262

・ 水産業では、遠州灘、伊勢湾の豊かな漁場を活かし、さくらえびやしらす、あさり、伊勢えびなどの漁業も盛んである。

263

264

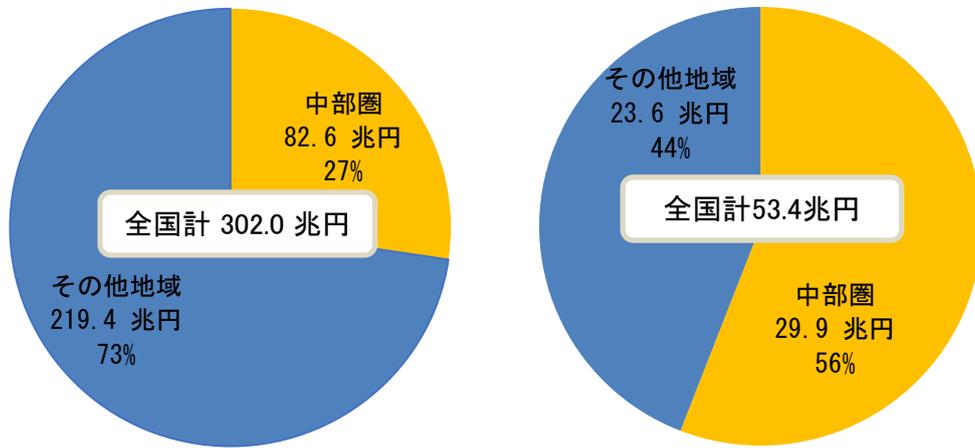
265

266

図表 1-16 中部圏の製造品出荷額等

[製造業計の製造品出荷額等の全国シェア]

[自動車産業の製造品出荷額等の全国シェア]



267

268

※岐阜県及び長野県の自動車車体・附随車製造業は秘匿値のため中部圏に含めていない。

269

出典：経済産業省「2021年経済センサス（2020年実績）」より作成

270

271

2-5 充実した交通インフラ・ネットワーク

272

- ・中部圏は、新東名・新名神高速道路、東名・名神高速道路、中央自動車道や東海道新幹線などの東西軸と、東海北陸自動車道、三遠南信自動車道、中部横断自動車道などの南北軸の交通インフラが交わっている。さらに中部圏北部では、長野県と福井県を東西に結ぶ中部縦貫自動車道の整備も進められている。一方で未整備区間もあり、早期の整備が望まれている。

273

274

275

276

277

- ・環状道路については、名古屋環状2号線が2021年に全線開通し、東海環状自動車道も2026年度の全線開通を目指し整備が進められている。

278

279

- ・中部国際空港（セントレア）や名古屋港、四日市港、清水港等、海外とのゲートウェイ機能も有している。

280

281

- ・今後、リニア中央新幹線の東京・名古屋間の開業により、東京と名古屋が40分で結ばれ、さらに大阪までの全線開業で三大都市圏が約1時間で結ばれることでスーパー・メガリージョンの形成が期待される。

282

283

284

285 3 中部圏の状況・課題

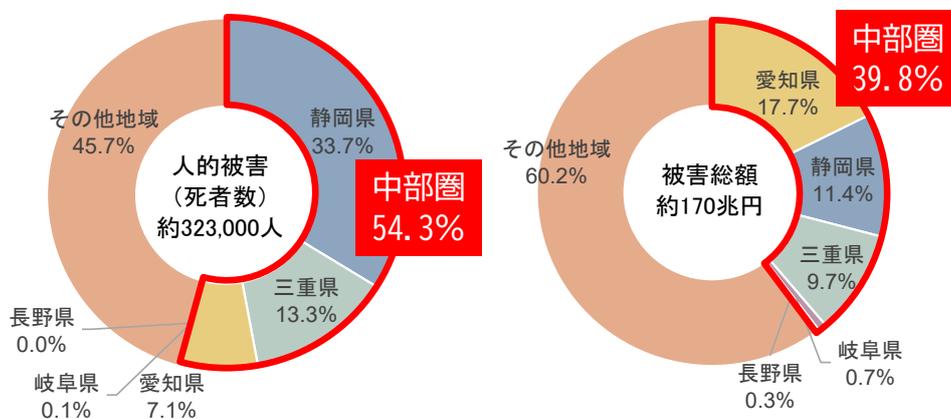
286 3-1 南海トラフ地震の切迫

- 287 ・南海トラフ地震の発生が懸念されており、沿岸部を中心に甚大な地震被害、
288 津波被害が危惧されている。特に中部圏の被害は、2012年の推計では最大想
289 定死者数約32万人のうち約5割、直接被害約170兆円のうち約4割と見込ま
290 れている。(図表1-18)
- 291 ・我が国最大のゼロメートル地帯を有し、南海トラフ地震による津波の被害が
292 広範囲に及ぶことが想定されることから、隣接圏域と連携した広域の防災・
293 減災対策が必要である。

294

295

図表1-18 南海トラフ地震による人的被害・被害総額



296

297

298

299

300

301

302

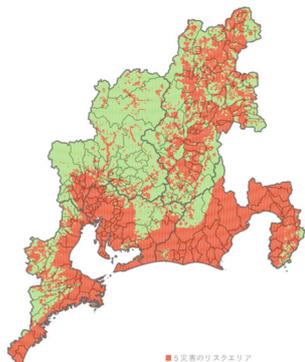
303 3-2 洪水・土砂災害の激甚化・頻発化

- 304 ・災害リスクエリアに多くの人口、住宅・都市機能が立地しており、中部圏で
305 は災害リスクに曝される人口は全体の90%以上である。(図表1-19)
- 306 ・中部圏では、狩野川台風、伊勢湾台風、東海豪雨、令和元年東日本台風など、
307 洪水・高潮によりこれまで多くの被害を受けてきた。特に、我が国有数の大
308 河川である木曾川、長良川、揖斐川が流れ込む濃尾平野には広大なゼロメー
309 トル地帯が広がっており、高い洪水・高潮リスクを抱えている。
- 310 ・山地部は、我が国最大級の断層系である中央構造線や糸魚川・静岡構造線等
311 にも起因し脆弱で、土砂災害によるリスクも高い。

312

313

図表 1-19 5つの災害リスクエリアの重ね合わせ図



対象災害	リスクエリア面積 (面積に対する割合)	リスクエリア内人口(2010年) (全人口に対する割合)
洪水	約2,400km ² (5.8%)	558万人(32.5%)
土砂災害	約9,900km ² (24.2%)	100万人(5.8%)
地震災害(震度被害)	約13,900km ² (33.9%)	1,338万人(80.9%)
地震災害(液状化被害)	約5,200km ² (12.6%)	836万人(48.7%)
津波災害	約1,400km ² (3.4%)	237万人(13.8%)
5災害いずれか(中部圏)	約22,800km ² (55.7%)	1,547万人(90.2%)
5災害いずれか(全国)	約131,400km ² (34.8%)	9,442万人(73.7%)

314

315 出典：国土政策局提供データを使用し、中部地方整備局作成

316

317 3-3 人口減少・少子高齢化の進行等

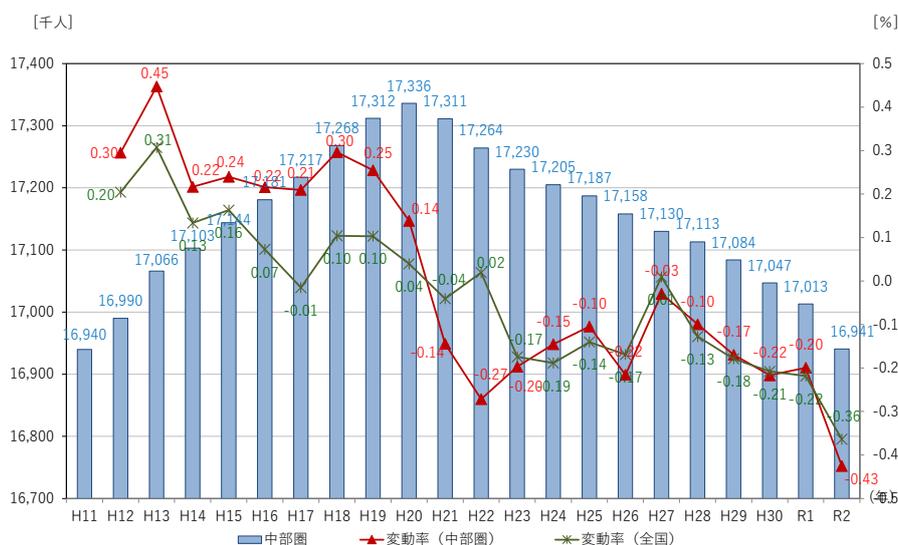
318 ・中部圏の人口減少率は全国に比べて緩やかな傾向で推移していたが、直近で
319 は全国の減少率を上回って減少している。老年人口が増加、生産年齢人口が
320 減少することにより地域活力の低下が懸念されている。(図表 1-20)

321 ・乗合バスの輸送人員は、人口減少のペースを超えて全国的に減少し、また、
322 旅客・貨物ともに自動車運送事業の人手不足が深刻化し、事業の効率化や人
323 材の育成・確保が課題となる等、生活サービス機能の低下が危惧される。

324 ・特に都市部では、顕著な老年人口の増加が見込まれ、医療・介護需要の増大
325 による人材や施設の不足等が危惧されている。

326

図表 1-20 人口と変動率



327

328 出典：中部地方整備局「中部圏広域地方計画 中間評価 本編」

329

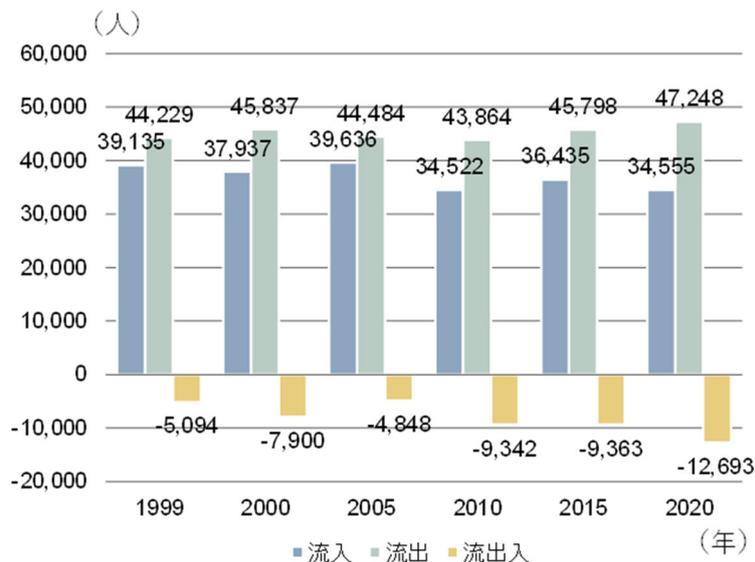
330

331 3-4 若者・女性の圏外転出

- 332 ・東京一極集中が進む中で、名古屋圏から東京圏への転出者数は、東京圏から
- 333 名古屋圏への転入者数を大きく上回っており、1999年から2020年にかけて
- 334 その転出入差は約2.5倍に拡大した。年齢層では、20代の転出が突出してい
- 335 る。(図表1-21、図表1-22)
- 336 ・中部圏の高校等を卒業した学生の進学先地域は、首都圏が約2割となってい
- 337 る。
- 338 ・若年女性が東京圏の大学に進学した理由としては、「学びたい学部・学科が
- 339 あった、学びたい教授・講師等がいたから」「東京圏で暮らしたかったから」
- 340 という理由が比較的多い。就職時に東京圏を選択した理由としては、「やり
- 341 たい仕事があったから」が最も多い。
- 342 ・愛知県の15歳以上人口に占める労働力人口比率(2020年)は、男性が74.5%、
- 343 女性が55.1%と男性女性とも全国平均より高くなっているが、25~44歳の女
- 344 性の労働力人口比率は、全国より低くなっている。
- 345 ・中部圏は美術家や音楽家などの人口が首都圏や近畿圏に比べると少なく、人
- 346 口あたりの比率も低い。また、年間のライブなどの公演数も人口あたりにす
- 347 ると全国的に少ない水準にある。(図表1-23)

348
349

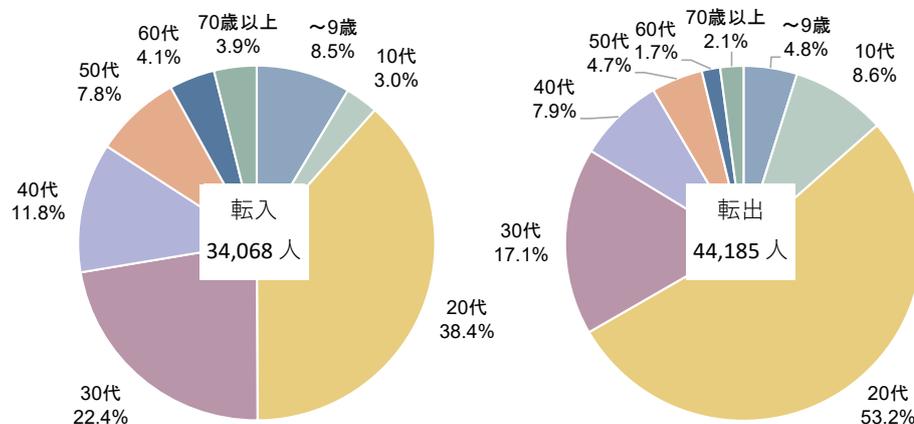
図表1-21 名古屋圏における東京圏との流出入の状況(合計)



350
351
352
353

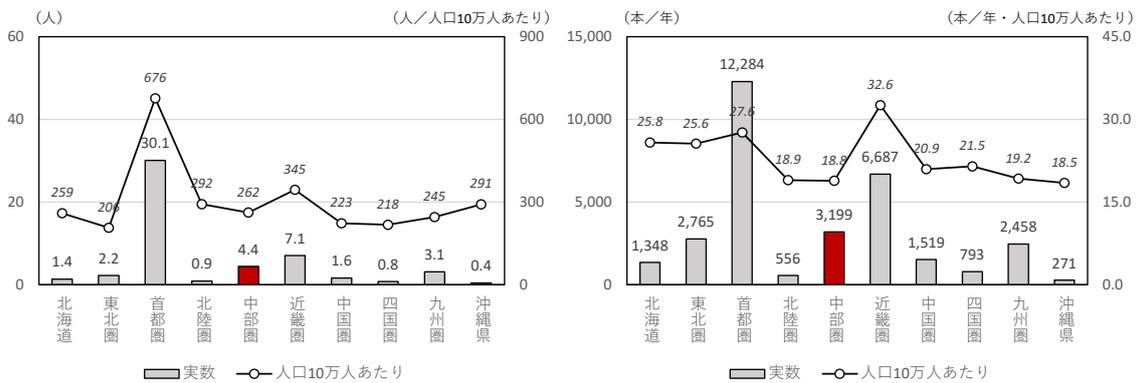
※1999年からの時系列図は外国人を含まず、年齢別は外国人を含むため、合計が一致しない
出典：総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」より作成

354 図表 1-22 名古屋圏における東京圏との流出入の状況（2020年、年代別シェア）
355



356
357 出典：総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」より作成
358

359
360 図表 1-23 クリエイターの数と年間公演数



361
362 ※クリエイターの数：「著述家，記者，編集者」「美術家，デザイナー，写真家，映像撮影者」および「音
363 楽家，舞台芸術家」の数
364 出典：総務省「令和2年国勢調査」、一般社団法人コンサートプロモーターズ協会「ライブ市場調査
365 (2019年)」より作成
366

367
368

369 第2章 将来像とその実現に向けた目標（将来像・目標）

370

371 第1節 将来像（＝中部圏で暮らす人々のウェルビーイングを実現するための
372 ビジョン）

373

374 1 中部圏の目指す方向

375 未曾有の人口減少、少子高齢化の加速化、新興国の台頭による国際競争の激
376 化に加え、コロナ禍や国際情勢の緊迫化は、日常の暮らしや経済活動に不可欠
377 なエネルギーや食料を始めとする我が国の安全保障上のリスク、グローバルサ
378 プライチェーンのリスクを顕在化させ、我が国或いは中部圏を取り巻く情勢は
379 大きな変化をみせている。さらに、気候変動による自然災害の激甚化・頻発化
380 や高度経済成長下で整備されたインフラの老朽化も相まって、地域・暮らし・
381 産業は存続の危機ともいえる状況となっている。また、切迫する南海トラフ地
382 震・津波は全国最大のゼロメートル地帯を有し、沿岸部に産業が集積する中部
383 圏にとっては、地域・暮らし・産業の基盤をも壊滅させるリスクを有している。

384 このような様々なリスクに直面する中部圏には、その影響を最小化するとと
385 もに、社会全体でのカーボンニュートラルへの対応、コロナ禍を契機とした暮
386 らし方・働き方の変化、デジタル技術の急速な進展、若者・女性の圏外への転
387 出等の課題への対応も求められている。

388 こうした将来に対する不透明感や不安感が増幅する中で、中部圏で暮らす
389 人々のウェルビーイングを実現するためには、中部圏の魅力といえるゆとりあ
390 る生活環境や、歴史・文化、美しい自然を維持しながら地域の個性を磨き、リ
391 ニア中央新幹線の開業によるスーパー・メガリージョンの形成を見据え、我が
392 国の社会・経済を支えてきた中部圏のものづくり技術を礎に、新たな産業を育
393 み、安全で安心な持続的に成長する地域へと進化していかなければならない。

394

395 2 中部圏の将来像

396

生活の質が高く持続的に成長する強靱な中部圏

397 （1）豊かな自然、固有の歴史・文化、ものづくりをはじめとした多様な産業
398 を有する中部圏の各地域が個性を磨き、世界から人材が集まり、すべて
399 の人が活躍できるQOLの高い魅力的な地域をつくる。

400 ※QOL（Quality of Life）：地域と生活に対する個人の満足度

401

402 （2）美しい自然を維持しながら、産学官の連携のもと、我が国の社会・経済
403 を支えてきた中部圏の特性を活かし、気候変動による災害の激甚化、巨
404 大地震やカーボンニュートラルへの対応などの世界的課題に挑み、新た
405 な産業を育み、持続的に成長する強靱な地域をつくる。

406
407 (3) 交通・情報通信ネットワークの拡充によりスーパー・メガリージョンの
408 効果を最大化し、中部圏内の多様な地域が補完・連携して中部圏が一体
409 となって我が国の社会・経済を牽引し、世界の拠点としての役割機能を
410 果たす。

411
412 第2節 目標（＝中部圏の将来像の実現に向けた方向性）
413

414 前節で掲げた将来像を実現するためには、様々な主体が目標を共有して連携
415 していく必要がある。そのため、その方向性を具体化するため「人々の暮ら
416 し」、「経済を支える産業」、「スーパー・メガリージョンによる国際競争力の強
417 化」、「災害への備えを含む国土管理」の四つの観点で目標を設定する。

418 人々の暮らしの観点では、「1. 魅力あふれる地域の創出」、経済を支える産
419 業の観点では、「2. 産業構造の高度化」、スーパー・メガリージョンによる国
420 際競争力の強化の観点では、「3. 新たな大都市圏への進化」、災害への備えを
421 含む国土管理の観点では、「4. 恵みの活用、圏土の強靱化」を目標とする。

422 以下に、それぞれの目標についての考え方を記す。

423
424 1 魅力あふれる地域の創出
425

426 1-1 活力ある地方の創生

427 中部圏のゆとりある生活環境や、地域や人のつながり、地域コミュニティの
428 強さなどを活かしつつも、魅力的な雇用の場の創出や安心して子どもを産み育
429 て、女性が就労しやすく、高齢者および外国人など多様な人々が生き甲斐を持
430 って参画できるQOLの高い魅力あふれる社会の実現を目指す。そのため、中
431 部圏の強みであるものづくりや特徴ある観光資源を活かし、国内外からの観光
432 客を呼び込み、交流人口ならびに関係人口を拡大し地域の活力を生み出し、地
433 域の個性を磨き、すべての人が活躍し助け合う地域をつくることが重要となる。

434
435 1-2 暮らしやすい地域生活圏の形成

436 さらに、急速に発達するデジタル技術を様々な地域や分野で活用できるよう
437 にすることで、誰一人取り残さないためのデジタル化を推進するとともに、
438 様々な交通手段を活用したシームレスな交通ネットワークの形成により、地域
439 間からラストワンマイルまでの移動手段を確保するなど、生活の利便性を高め、
440 豊かさが隅々まで行き渡る地域生活圏を形成する。

441
442

443 2 産業構造の高度化

444

445 2-1 ものづくりの高付加価値化と新産業の創出による産業の強化

446 新興国が著しく経済成長する中、我が国の経済を安定的に発展させていくた
447 めには、スタートアップの集積・創出および既存産業とのマッチング等による
448 産業の高付加価値化、先端技術の研究開発による産業の高度化等を推進し、中
449 部圏が世界に誇るものづくり技術を礎に、クリエイティブな仕事、イノベーシ
450 ョンを生み出す地域となることが重要である。

451

452 2-2 世界をリードし続ける産業構造への転換

453 さらに、国際的な経済安全保障リスクの顕在化や、カーボンニュートラルの
454 実現、南海トラフ地震の切迫など、産業を取り巻く情勢は大きく変化している。
455 そのため、ものづくり産業を基軸とした産業構造を持つ中部圏においては、脱
456 炭素化の強力な推進とエネルギー供給の安定化、南海トラフ地震への備えが必
457 要である。このため、脱炭素化で世界をリードするとともに、レジリエンスの
458 向上による持続可能な産業構造への転換を図る。

459

460 3 新たな大都市圏への進化

461

462 三大都市圏の一翼を担う中部圏の役割として、リニア中央新幹線によって形
463 成されるスーパー・メガリージョンの効果の最大化が重要である。そのために
464 は、東西軸・南北軸の広域ネットワークの強化や鉄道駅等の拠点のポテンシャ
465 ルの活用により地域間の連携を高めるとともに、港湾・空港機能を強化するこ
466 とで我が国の国際交流拠点としての機能を果たすことが求められる。このこと
467 から、スーパー・メガリージョンの中心として、ヒト、モノ、カネ、情報が集
468 まり、我が国の成長を牽引する拠点となるべく大都市圏への進化を図る。

469

470 4 恵みの活用、圏土の強靱化

471

472 4-1 魅力ある地域資源の保全・活用

473 中部圏は 3000m 超の日本アルプスや、木曾川や天竜川等の大河川、伊勢湾や
474 駿河湾、志摩半島や伊豆半島など変化に富んだ地形を有し、雄大な風土・風景、
475 豊かな生態系、肥沃な土壌、清涼な水に恵まれている。こうした中部特有の
476 山々、川、海の恵みを享受し、活用することが、水・食・エネルギーを賄い、
477 カーボンニュートラルにもつながる。

478

479 4-2 地域が直面するリスクへの対応

480 豊かな自然環境を有する一方で、河川は急峻で、広大なゼロメートル地帯が
481 広がり、水害、土砂災害に対し脆弱であり、火山災害、南海トラフ地震による
482 被害も甚大となる。また、大都市圏の進化により海外との交流が活発になるこ
483 とで感染症拡大のリスクも高まる。このため、南海トラフ地震や激甚化する豪
484 雨災害、感染症などから地域をまもり、中部圏が直面する様々なリスクに対応
485 し圏土の強靱化を図る。

486

487 第3節 国土づくりの戦略的視点

488

489 前項で掲げた目標の推進にあたっては、スピーディーな対応を念頭に官民の
490 多様なステークホルダーが連携して取り組む「①民の力を最大限発揮する官民
491 連携」、効率的・効果的な課題解決を図るために「②デジタルの徹底活用」に
492 留意する。また、生活者目線に立った人々のウェルビーイングの増大のため
493 「③生活者・利用者の利便の最適化」、分野ごとに縦割りで課題解決をしてい
494 くのではなく、異なる分野で抱えている共通の課題に対して、課題を共有する
495 ことで解決の可能性を拡大していく「④縦割りの打破（分野の垣根を越える横
496 串の発想）」の4つの視点に留意する。